

第1章 はじめに

1-1 背景・目的

伊万里市（以下、「本市」とします。）は、天然の良港である伊万里湾を中心に大陸との貿易で発展してきました。江戸時代には「肥前陶磁器」の積出港として「伊万里」の名を世界に広め、大正時代以降は石炭の積出港として繁栄しました。近年では国際物流の日本海側拠点港（国際海上コンテナ拠点港）として位置づけられ、ますますの発展が期待されています。

また、日本磁器の最高峰と称賛される焼き物「鍋島」をはじめ、伊万里ブランドとして伊万里梨や伊万里牛など高品質な特産品が生産されており、全国的に知名度が高く、文化、産業において調和のとれたまちとして成長を続けています。

一方、人口減少や少子高齢化の進行により、生産年齢人口が減少したことに伴う活力の低下や核家族化は、全国的な傾向と同様に本市においてもみられます。空き店舗数が増加していることから、中心市街地におけるかつての賑わいは失われつつある状況です。

さらに、インターネットをはじめとするICTの普及によりSNS等をとおした新しい「つながり」やライフスタイルの変化による個人の価値観の多様化もみられます。

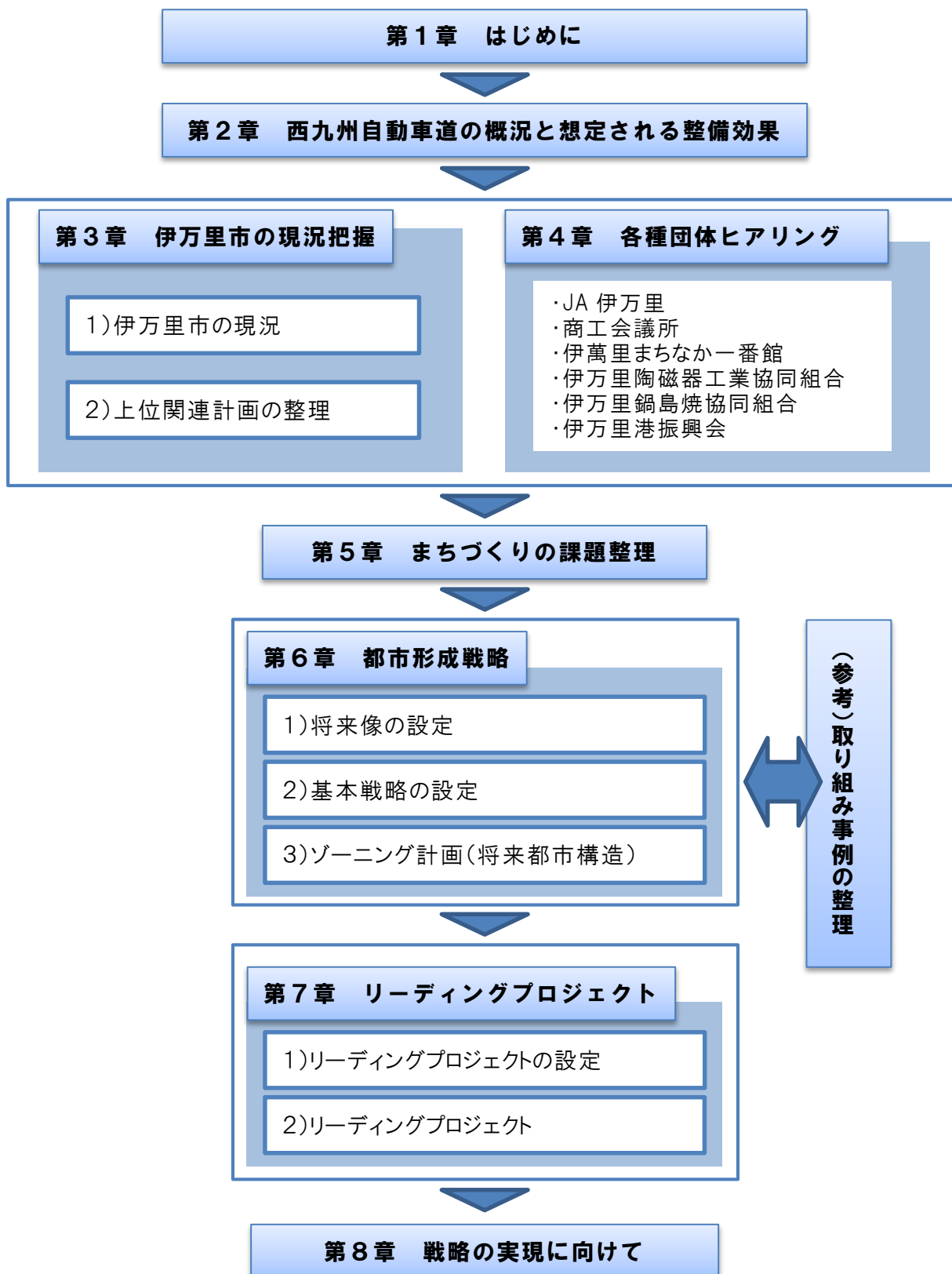
このような社会的動向の中、平成26年度に福岡都市圏からの主要広域交通軸となる西九州自動車道の南波多谷口ICが供用開始されました。平成29年度には伊万里東府招ICが供用開始予定であることから、西九州自動車道の延伸を今後、伊万里港の機能向上や企業活動の促進、雇用拡大、観光客の増加など、本市の産業経済、観光文化の振興・活性化につなげていく必要があります。

以上のような背景を受け、本戦略は、西九州自動車道の沿線で本市の中心部に位置する伊万里中IC（仮称）の供用開始により予想される流入人口の増加や新たな物流のネットワークの構築など、ヒトやモノの動きを踏まえ、伊万里市第5次総合計画の将来都市像である「活力あふれ ひとが輝く 安らぎのまち 伊万里」の実現に向けて、中長期的なビジョンの策定を行うことを目的とするものです。

1-2 策定フロー及び各章の内容

1. 策定フロー

以下のフローに基づき本戦略を策定します。



2. 各章の内容

各章における内容を以下に示します。

「第2章 西九州自動車道の概況と想定される整備効果」では、本戦略策定の背景となる西九州自動車道整備の全体像を把握し、整備により期待される効果等を整理します。

「第3章 伊万里市の現況把握」では、本市の人口、産業、土地利用動向等の社会経済状況を把握するとともに、上位関連計画における本市のまちづくりの方向性を確認します。

「第4章 各種団体ヒアリング」では、西九州自動車道の開通を控え、各団体が感じている課題や今後の戦略等を把握するためにヒアリングを行います。

「第5章 まちづくりの課題整理」では、第3章および第4章の結果を受け、西九州自動車道整備効果を本市の地域振興につなげていくための課題を整理します。

「第6章 都市形成戦略」では、第5章の結果を踏まえ、本市が目指すべき将来像及びその実現のための基本戦略等を設定します。

「第7章 リーディングプロジェクト」では、第6章の基本戦略を推進するために先導的に取り組むべきものをリーディングプロジェクトとして設定し、具体的な展開方針や取り組み事例等を整理します。

「第8章 戦略の実現に向けて」では、基本戦略及びリーディングプロジェクトの展開スケジュール、実現に向けた基本的な考え方及び具体の実現方策を整理します。